

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年2月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3771200304		
法人名	有限会社 お元気ですかショップ山下		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	香川県小豆郡小豆島町西村甲2121番地1 (電話)0879-82-6368		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価決定日	平成22年2月2日

【情報提供票より】(21年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤 5 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 13.0 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~44,500 円	その他の経費(月額)	16,000~20,000円+実費
敷金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無
食材料費	朝食	225 円	昼食 375 円
	夕食	475 円	おやつ 125 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(10月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内海病院 アイデンタルクリニック
---------	------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を大切にし、職員は笑顔で接し、言葉ははっきりと丁寧に伝えるようにしている。 ・避難訓練等安全管理に力を入れている。又常に利用者を見守り、気づきを大切にしている。 ・利用者が楽しく過ごせるよう季節のドライブ、散歩、毎月のイベントを企画している。 ・家訓・理念のもと職員は利用者と共に生活し、家庭的な雰囲気に関心している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>地中海を思わせるオリーブの丘を背景に海辺の静かな環境に恵まれたグループホームである。代表者の「家庭的な雰囲気を大切にしたい」という思いが職員に共有され、同一の方向性を持って業務改善など意欲的な取り組みがうかがえる。清掃がゆきとどき、明るく快適な居住空間は人の気配を感じられる空間が保たれ、職員の穏やかな姿勢とともに利用者の落ち着いた生活が営まれているホームである。協力医療機関の確保のほか、かかりつけ医の通院介助も支援され安心した生活を送れる体制が整っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングの目立つ所に家訓として理念を掲げており、時々職員同士確認し意識づけしている。常に地域に溶け込むよう、地域に貢献できるよう努めています。	玄関やリビングに家訓として理念が掲げられている。介護計画作成時カンファレンスや日々の介護の中で家訓に沿っているか、管理者は職員と共に確認して意識づけしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会に参加したり、地域の花の日の作業に加わり草取り、植え替えのお手伝いをしている。近所の方がいつも新鮮な野菜を持ってきて下さり、お礼としてお寿司を持っていったりしている。	自治会に加入し、代表は役員になったり、また、利用者は地域の行事に積極的に参加し、地域とのつながりを大切にすホームの姿勢がうかがえる。また青空新聞を発行配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム運営推進協議会等で地域介護の実態を聞いたり、困ったことに関してはアドバイスしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動の状況を報告したり、御近所の皆さんの意見等を伺って近所の一員としてのあり方を把握して、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回開催され、ホームの状況や取り組みについて報告し話し合っている。また、職員間で会議の意見を討議しサービスの質の向上に活かしている。	地域に密着した運営をするうえで、地域の代表者をはじめ幅広い立場の人に運営推進会議への参加・呼びかけは大切と思われる。これからのホームの多彩な取り組みの協力者・モニター役として、更にサービス向上につなげることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新や毎月の入居者の報告等、情報交換している。また、運営推進会議や、ホーム長が問い合わせし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者には運営推進会議に出席いただいている。また、必要時には相談・指導を受けるなど連携強化に努めサービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵はかけないケアを行なっている。自走もできない車椅子の利用者が多く、転落防止の為に2名の方がベルトをしている。無意識に自らベルトを外しており、いつも車イスから落ちそうになる。	日中は鍵をかけていないが、状況確認のためにチャイムセンサーは設置されている。また、できる限り離床時間を長く保つために、座位のとりにくい利用者さんには家族の同意書をとって座位確保の為にベルトを利用しているが、目を離さない介護の姿勢はうかがえる。	自分でははずせるベルトだが、身体拘束になる可能性があるため、今後更に時間短縮、なくす介護へと工夫を期待する。

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会で話し合い、利用者に対して思いやりの心で接している。常に虐待は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会で取り上げた事がある。利用者の収支は家族が管理しており、必要な買物は立て替えて、後に請求している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、本人や家族の納得が得られるよう取り組んでいる。「ご入居の流れ」という分かりやすいパンフレットを配布し、面接を大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、運営に反映している。利用者の何気ない言葉がヒントになり改善につながる事もある	ご意見箱を設置しているが利用はない。面会時・家族会・運営推進会議などで意見をもらい対応している。日頃の利用者の言動にも注意し、要望を把握するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会の場で意見を交換したり、代表者と管理者が度々話し合い職員の声を参考にして色々と運営に活かしている。	職員は職員会の場で日頃の気づきを提案したり、また、代表はアンケートを取ったりして意見の把握に努めている。入浴リフトやチャイムセンサーの設置場所の変更・介護記録改善などが行われ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の勤務状況を把握し、職員の日頃の努力や実績を処遇に反映している。職員が継続して働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は新人の職員に介護の基本の研修を行っている。また月一回の勉強会や外の研修にも参加する機会を確保している。		

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が研修の際に同業者と交流する機会があり、他施設の良い所を検討し取り入れたりしている。時々同業者の見学を受け入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何回か面接をして本人からよく話を聞いたり、職員間でカンファレンスする。また、入居前に本人に見学に来てもらう。入居後は特に気をつけて声かけや介護を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人の事を家族から話をよく聞き、注意すべき事や要望を把握する。入居後は様子を家族に連絡したり、家族にもカンファレンスに参加してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と家族の話をよく聞き、どのサービスが本人や家族にとって最適か、ケアマネジャーと家族、職員等にて他のサービス利用も含めて話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で会話を多く持ち、その人の性格や特性を生かせるよう、楽しい場面作りを心掛けたり、出来る事から職員と共に手伝ってもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもカンファレンスに参加してもらい要望等を伺い、その人らしい生活を送ってもらえるよう協力していただいたり、毎月の新聞で本人の様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと周辺へのドライブにお連れしたり、また、行きたい所の希望も取り入れ、お祭り見学に行く等、懐かしい人と出会う事を支援している。	友人・知人の訪問があったり、電話での交流がある。地域の行事への参加・近隣への外出、海・山双方に近くドライブなど支援している。	

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同志なじみの関係ができて会話を楽しんでいるが、認知症の進行により難しい方には職員が中に入っている。日中は常に全員がリビングで過ごす事が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要となった場合は、移り住む先の関係者に本人の情報を詳しく伝えている。また、その後も経過を見守り、必要に応じてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性を大切に、できるだけ入居者の希望を取り入れ、日々の介護に活かしている。高度の認知症の方には本人の視点に立って職員全員で検討している。	一人ひとりの利用者の特性・認知症の程度を理解し、日常生活で個々の想いを見出せるよう表情や行動など日々の観察や試行で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を家族に聞いたり、本人の会話から少しずつ把握したりしている。馴染みの家具を居室に据える等、これまでの環境に近づけるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤した時に申し送りを受ける。介護記録や、連絡帳をチェックしてその人の変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月毎にカンファレンスを行い本人、家族、職員が参加している意見と交換し、チームで作った介護計画を作成している。	職員・ケアマネジャーがモニタリングを行っている。介護計画作成カンファレンスでは職員・ケアマネジャー・利用者など必要な関係者が参加・検討・作成している。3カ月毎の定期的な見直しのほか、状態の変化に応じた計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の介護記録を記入し、気づきを共有している。ケアの変化は連絡帳に記入、確認する事で情報を共有、介護計画に活かしている。		

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所に高齢者住宅、デイサービスセンター、ヘルパーセンター等があり、本人、家族のニーズによっては住み替えを支援している。各所との交流も大切にしている。急変時は医療との連携で希望を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の音楽療法、地域の人の踊りの慰問、保育園、民生委員の慰問を受けている。他、消防署の指導を受けての避難訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を確保しており、希望があれば他の病院受診もしている。島に点在している6病院(医院)に個別に通院介助している	入居前のかかりつけ医の受診を希望される方は継続して受診支援している。協力医療機関と日常的に連携を取り緊急時の支援が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の内の看護職に日頃から状態の変化に対していち早く連絡して健康管理や医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人の情報を提供している。職員は度々見舞い、スムーズな退院につながるよう、病院関係者や家族、本人と話し合い退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスの時等に家族や職員と相談している。事業所としては出来る限り、ケアを続けたいが限界もあり、かかりつけ医や家族と話し合っ方針を共有している。	入居時より事業所で対応できる最大のケアを説明し、主治医・家族等と話し合いの上、方針を統一し書面にて確認している。将来的には終末期に向けた対応の必要性を考え勉強・検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の時に必要な応急手当の方法等を研修し、初期対応の大切さを職員全員に周知するよう、定期的な訓練を行っている。		

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の方に来て頂き、避難訓練を実施している。またホーム独自で毎月避難訓練を行い主に夜間を想定した避難誘導の訓練を行いその反省も行なっている。	緊急連絡網・マニュアルを作成し職員は共有している。年2回の避難訓練・毎月の事業所独自の訓練を、夜間を想定したものを含めて、利用者の状況に合わせて行っている。災害の備えについては飲料水を確保している。また、隣は地区の避難所となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉に気を付けている。利用者の尊厳を損ねるような記録をしない。プライバシー確保の為、職員は他に漏らさない事を確認し合っている。	個人情報の保護・管理の徹底を図っている。記録はパソコンから手書きに変更し、直接記入できるようにしてメモを少なくする工夫をしている。日々の生活の中でも一人ひとりへの言葉かけや支援は誇りやプライバシーを損なわない配慮がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断力や希望を表出する力が低下しているが、常に声かけにて本人の気持を確認する他、本人が納得できるよう説明している。意思表示ができない場合であっても、反応を注意深くキャッチして本人の希望をくみとる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性ある生活を支援している。自由な生活を優先しながら・援助が必要な時はその人のペースに合わせている。放任するのではなく、見守りながら柔軟な関わり方にて変えていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装選びを本人にしてもらっている。出来ない人も多く、職員が清潔な服装に整えている。理容は本人の行きつけに行く人と、ホームに理容師に来てもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が共に食事を楽しんでいる。テーブルを拭いてもらったり、歩ける人は食器を運んでもらったりしている。	週2回のお好み昼食や手作りおやつを作るなど利用者の前向きな意思や姿勢を引き出す工夫がされている。アルコールを嗜んでいる利用者・胃ろうからの注入食の利用者・全面介助の利用者など、それぞれの利用者が職員の見守りや声かけで一人ひとりのペースで職員と共に食事の時間を楽しんでいる。	

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し、その人の適量を把握し、栄養バランスや好みも考慮して食生活を支援している。水分補給も常に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促したり、介助している。夜間は義歯を液に浸して消毒し、口中も清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェックを行い、排泄のパターンを把握し、トイレ介助している。認知度、介護度の高い利用者はおむつ使用しているが、定期的に介助し、清潔を保っている。	排泄の自立をしている利用者はいないが、利用者の排泄パターンの把握に心がけ、リハビリパンツ・尿とりパットを利用者に合わせて用いながら前誘導や介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便チェックを行い、医師に報告し、内服薬によりコントロールができています。日中はほぼ離床し活動的な生活を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の体調に合わせてたり、希望を取り入れて支援をしている。利用者は時間帯は気にしない方ばかりであり、主に午後の入浴にしている。入浴が嫌いな人も楽しめるようになってきている。	利用者の体調に合わせて毎日から週3、4回入浴支援がされている。近く入浴用リフト導入が予定されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床して、入居者と仲良く過ごし、夜安眠できるよう支援している。日中も自由に休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の説明書をよく読み、職員はほぼ把握できており、症状の変化を見守り、異常があれば医師に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法や体操教室、ドライブ、季節毎のイベントに参加する等、気分転換を支援している。また一人ひとりの誕生日会を行っている。		

グループホーム青空(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって、散歩に出かけたり、庭に出て外気浴等している。	その日の天候・利用者の体調に合わせて2～3日に1回は散歩や外気浴を楽しんでいる。また、ふるさと周辺へドライブしたりしている。高松に食事に出かけたこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度の高い利用者は所持できないが、小遣い程度のお金は所持できる利用者もいて買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話をしたり、かかってきた電話を利用者に取りつぎ支援している。書ける人には年賀状を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日こまめに掃除を行い、先ず清潔にする事を心掛けている。リビングにはくつろげるソファを置き、季節の花を活ける等している。	共有スペースのリビングからは瀬戸内海が一望できる大きな窓が開かれている。畳のコーナーもあり、昼寝なども楽しむことができる。清掃が行き届き不快な臭いもなく、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に自分の場所を見つけて、自由に会話を楽しんだりして日中は殆んど一緒に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やベッドを配置し、本人が安心して過ごせるよう、その人らしい居室となっている。	各居室には寝具・ベッド・テレビ・仏具などそれぞれ利用者が使い慣れた馴染みの物をそばに置いたり、手作りの作品を飾ってその人らしく暮らせる居室を家族・職員と共に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに大きくわかるよう表示したり、居室のドアには本人の写真を貼り、目印にしている。タンスにも引き出しに中の物がわかるよう表示している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、各ユニットのリビングに理念を掲げ、職員、管理者は常に意識づけ共有した上で日々取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会への参加や運動会、秋祭り、地域花の日等の行事参加を積極的に行なっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム、運営推進協議会等で介護の実態を聞いたり、困っている事に関して意見交換を行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後、職員会で報告し、意見を検討し、改善へ取り組みグループホームサービスの向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会に参加された福祉課担当者に実情を報告。困ったこと分からない事に対してアドバイスをいただいている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議に於いて身体拘束委員から説明を受け正しく理解できている。施錠することなく利用者さんの思いを大切にしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会の勉強会において、虐待防止の説明をし虐待のない介護に努めている。

グループホーム青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会があった。入居者の収支は家族が管理、入居者の内3名は小遣い程度は預かっていて、収入は面会時に確認している。制度は活用なし。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、パンフレット、ご入居の流れといった資料を使用し、本人、家族の納得が得られるよう分かりやすく行なっている。家族様、施設長、管理者で行なっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会にご家族様も参加され意見交換している。ご意見箱を設置し運営に反映している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員及び管理者は業務に関する意見は話し合い、取り組んでいる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の持っているタレント性又介護に関して協力、努力している事を把握し楽しく働き易い環境を作ることを心掛けている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画を立て研修に参加、報告書を提出。職員会議で詳しく発表し職員全体の質の向上につなげている。施設内でも定期的に勉強会が行われている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加の際、交流の場があり、情報交換をしている。他の施設の良い所を検討し、サービス向上に役立っている。

グループホーム青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みから入居時までには何度も面接し、顔なじみを作り不安に思っていること、困ると思っていることを傾聴し、見学に来てもらっている。入居後は、特に気をつけて声掛け、寄り添って良い関係を築いている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人の事を家族からよく聞き注意すべきこと又要望を把握し、入居後は様子を連絡することで信頼関係を深めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ケアマネジャーからの情報を参考に、ご本人の様子を観察し見極めている。他のサービスの必要があれば、ご家族、ケアマネジャーと話し合う。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で会話を多く持ち、その人の性格や出来ることを活かせるよう、場面場面で手伝ってもらい職員と共にいる。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会又カンファレンス参加時の会話の中で望まれていることを伺いその人らしい生活を過ごしてもらえる様に協力をいただいている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふる里周辺のドライブに行き、近所の人に会ったり美容院、理容院も顔なじみの所に行き昔話を楽しめる様に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にゲームを楽しむ。また散歩に行った時等、助け合ったり家事、料理を手伝うことで自然と良い関係を作っている。

グループホーム 青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族に会えば様子を伺ったり、力になれる事があれば手伝わせていただき常に家族と会えば挨拶を交わしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を取り入れ、日々寄り添っているカンファレンスにもご本人にも参加して頂き毎日の介護に活かしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を家族に聞いたり、一人ひとりの会話の中から少しずつ把握している。また面会の知人や友人からの情報も大切にしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れの中で小さな出来事に気づき、あれば記録したり申し送りをして職員で共有している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入院、転倒等身心の変化があった時は連絡ノート、介護記録を利用し、小さな変化にも対応出来るようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に小さな気づきや利用者の動き、会話等を記録し、介護計画に活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に病院を選び受診している。急変時の対応、医療との連携により希望に沿えるようにしている。

グループホーム青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員立ち会いの中で避難訓練及び救急指導を受ける。音楽療法、保育園、民生委員、おどり等の慰問も受けており、地域教育文化展にも出かけている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの希望のかかりつけ医の受診を支援している。希望があれば他の病院受診もしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので保健管理の助言をもらったり、通院時顔なじみになった看護職員に相談や指導を受けている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族と相談。医療機関に対しては入院に至るまでの情報を提供する。お見舞いに行き利用者さんの様子を家族、職員で共有していく。早期退院につながるように病院、家族、本人と話し合い支援を図る。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者で対象者はいないが予想される事なので勉強会で取り組んでいる。家族、運営推進協議会で意見を聞いている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月勉強会に於いて高齢者に起こり易いかつ急変しやすい病気に対しての初期処置について学びあい、心臓マッサージの練習を行なっている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、同法人事業所お元気村との交流を持ち、協力を得ている。グループホーム運営推進協議会の協力もお願いしている。

グループホーム青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った声掛け、会話を心掛けている。記録、名前は外に漏れないように又見えないように対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行と共に望みが表せない利用者には日常生活の中で何を望み実行したいかを見極め、自己決定が出来るようにコミュニケーションを取っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその人のペースで過ごしてもらうように努めている。また何をしたいか、どのようにし過ごしたいかを聞き、できる限り希望に沿っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みで選んでいる。選べない方には職員と共に決めている。理容、美容は本人の意向に沿って支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の好み、ペースに合わせて食事をしている。職員も一緒に食事しながら味付けを伺ったり何が食べたいか等を聞きながら楽しんでいる。入居者が出来る範囲で手伝ってもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、接種量の少ない人には盛り付け方又好みのものを工夫して代替食を出している。水分補給の大切さを意識し支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の洗面又食後の歯磨きは声掛けと一部介助にて行っている。夜間ポリドントに浸す等行なっている。

グループホーム青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン又入居者の行動を見ながら声掛け、誘導を行い、失禁予防に努めている。失禁の場合もさりげなく介助トイレの自立に向けて励ましながら行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を参考にしながら水分、食事、おやつを工夫し便秘予防に努めている。また、かかりつけ医師の指導により便秘薬も使用している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を好まれる。前もって好む時間を伺ったりしながら一人ひとりの希望に沿えるようにしている。随時入浴も行なっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常は離床し入居者同志和やかなおしゃべり、テレビを楽しんでいただき、一人ひとりのリズムにより休んでもらいスムーズに安眠休息ができるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の処方箋、受診ノートを参考に職員全員で把握している。薬変更の際も確認を重視している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方が活気のある生活が送れるように、得意なこと、趣味を取り入れている。ドライブ、散歩も日々行なっている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日、入居者の健康状態を見ながらドライブ、散歩に誘い、また、戸外での食事を取り入れている。

グループホーム青空(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売(パン屋さん)買い物で自分で支払をしていただいている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話の支援を行なっている。困難な方は代理で近況をお知らせしたり用件をお伝えしている。暑中見舞、年賀状の支援も行なっている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まず清潔にすることを心掛けている。リビングはくつろげる場所として季節の花を飾り家庭的な雰囲気大切にしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に自分の居場所を見つけて一人でロビーで過ごしたり、2~3人で和やかな会話を楽しんでいる。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、思い出の写真、手芸を持ち込んでもらい、本人が安心をし、その人らしい居室となっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙をしている。浴室も使用時はのれんをかけ、自室も分かるように名前や写真を提示している。